

令和6年度
第14期事業年度

事 業 報 告

令和6年4月1日から
令和7年3月31日まで

公益財団法人 日本ユニフォームセンター

<目次>

はじめに・・ 1

<事業概要>

(1) ユニフォームに関する思想の普及、啓発事業・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

I. 情報誌の発行とホームページの運営

1. 情報誌の発行

2. ホームページの運営（インターネットを通じた情報公開）

II. シンポジウム、セミナー、展示会ショーの開催

1. 定期セミナーの開催

2. 「反射材フェア2024」に協力

3. 1970年大阪万博ユニフォーム・コレクションに協力

III. 人材・専門家の育成

1. ユニフォーム資格認定制度とは

IV. 国内外諸団体との連携

1. 国内諸団体

2. 海外諸団体

(2) ユニフォームに関する調査、資料収集、研究開発事業・・・・・・・・ 10

I. ユニフォームに関連する調査、資料収集

1. 受託調査

2. 資料収集

II. 研究開発

1. ユニフォームの研究・開発

■公益事業の基本的「ユニフォーム調査・研究・開発事業」要件

① 自主研究開発

② 受託研究開発

Ⅲ. 基礎研究助成

1. 基礎研究助成の目的
2. 令和6年度の公募テーマ及び選考について

(3) ユニフォームに関する診断、相談、助言事業・・・・・・・・・・ 18

- I. 診断・相談・助言
- II. 監修・指導

(4) ユニフォームに関する知的財産権の提供事業・・・・・・・・・・ 19

(5) ユニフォームに関する物品の斡旋事業・・・・・・・・・・ 20

(6) ユニフォームに関する特定団体・企業などへのデザインの提供・診断・監修
・・・・・・・・・・ 20

< 管理部門 >

会 議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

- I. 理事会
- II. 評議員会
- III. 評議員選定委員会

会 員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

役 員 等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

- I. 構成
 1. 理 事 (役員)
 2. 監 事 (役員)
 3. 顧 問
 4. 評 議 員 (役員)
 5. 専 門 委 員

事業報告の附属明細書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

はじめに

弊法人は昭和 37 年発足以来「ユニフォームの改善・改良そしてその普及活動」に努め衣服文化に貢献してまいりました。

平成 23 年には、公益財団法人の認定を受け、公益財団法人日本ユニフォームセンターと改称し、新しくスタートいたしました。公益認定を契機に改めて、運営基本方針として「CSR の厳格推進」を挙げ、公益財団法人としての社会の期待に応えるべく、(定款 第 3 条：目的)「ユニフォームの改善改良とその思想の普及、啓発活動を行い、ユニフォーム文化の振興、勤労者の福祉の向上、並びに学生及びスポーツをする者の心身の健全な発達に寄与する」ことを目的とし、衣服文化に貢献してまいりました。

公益財団法人としての 14 期目。ユニフォーム業界を取り巻く環境は新型コロナウイルス禍による経済混乱の後も、気候変動やインフレ加速、円安によるインバウンド需要の高まりなど、これまでの常識では通用しない厳しい変化が続きました。

経産省の 2030 年を目標とする繊維産業政策の方向性「繊維ビジョン」の策定を機に業界内の意識も変わりました。中でも環境配慮のサステナビリティに係る提案は必須条件となりつつあります。ユニフォーム業界は他の衣料に比べるとリサイクルなどサステナブル素材を率先して使用してきていますが、今後も更なる努力が求められています。

弊法人では、このような状況の中、設立目的達成のための公益事業は SDGs へのユニフォームで貢献を方針に猛暑対策・環境対応ユニフォーム・災害対策・災害医療対策ユニフォーム、消防関連ユニフォーム・ユニフォーム管理リサイクル等、WEB リモートを活用し、調査・研究・開発に取り組みました。加えて、定期セミナー/ユニフォーム資格認定制度講習会/関係諸団体交流等においても、実際の開催に加え、WEB を活用して実施いたしました。

法人運営は定款に則り理事会及び評議員会を開催し、コンプライアンス厳守の法人運営を推進いたしました。

全体事業概要について

弊法人では、定款第 3 条に定める目的を達成するために、定款第 4 条の通り、以下の事業を柱として活動しました。

(定款 第 4 条：事業)

(1) ユニフォームに関する思想の普及、啓発事業

- (2) ユニフォームに関する調査、資料収集、研究開発事業
- (3) ユニフォームに関する診断、相談、助言事業
- (4) ユニフォームに関する知的財産権の提供事業
- (5) ユニフォームに関する物品の斡旋事業
- (6) ユニフォームに関する特定団体・企業などへのデザインの提供
- (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

以上の事業は夫々有機的に関連し、また補完する関係です。それぞれの事業を推進することで相互作用が発生し、有意義な公益活動に結びついています。

公益事業（1）～（3）について

- (1) ユニフォームに関する思想の普及、啓発事業として、社会に役立つユニフォーム関連情報の受発信と情報公開を、情報誌やホームページなどを活用して行いました。
また、セミナー、資格認定制度による人材育成、諸団体との協業でユニフォームの効果効用の普及活動を行いました。
- (2) ユニフォームに関する調査、資料収集、研究開発事業としては、ユニフォームに関わる意識調査として本年度は「ユニフォームにおける価格上昇への対応」を実施。
研究開発としては、災害対策・防災関連ユニフォーム、熱中症対策ウェア、SDGs 環境関連、リサイクル等、幅広いユニフォーム分野での社会貢献をめざし活動いたしました。
- (3) ユニフォームに関する診断、相談、助言事業としては、弊法人が培ったノウハウを社会に還元する為、積極的にユニフォームに関わる様々な問題にお応えする診断、相談、助言をホームページ・面談などで実施いたしました。
その他、全体事業概要（4）～（6）は、上記（1）（2）（3）公益事業を活性化するための収益事業として活動を行いました。

以下 令和6年度における事業活動について具体的に報告します。

— 令和6年度事業報告 —

(1) ユニフォームに関する思想の普及、啓発事業

I. 情報誌の発行とホームページの運営

1. 情報誌の発行

日本で最初のユニフォーム情報誌『ザ・ユニフォーム』を発行。

新しいユニフォームの紹介や各種研究成果・調査報告、セミナー・発表会・展示会を通じユニフォームに関わる最新技術・統計・データなどを取材し掲載しました。

発行部数は約2,000部で、ユニフォームを着る側・購入する側・作る側及び大学、関係団体、個人、全国の公立図書館などに頒布し、誌面を通してユニフォームの効果効用の普及活動を行いました。

今年度は603号～第606号を発行しました。

<掲載された主な内容>

- ① 「展示会情報等」
・・・603～606号掲載
- ② 「NUC定期セミナー」
・・・604・605・606号掲載
- ③ 「NUC会員調査 2024年のユニフォーム市況」
・・・605号掲載
- ④ NUC意識調査「自治体等における災害対策用被服の実態」報告書
・・・604・606号掲載
- ⑤ NUC事業活動報告（巻頭）
JR 東海 技術シャツ
・・・593号掲載
検疫官
・・・604号掲載
税関



情報誌『ザ・ユニフォーム』

・・・605号掲載

大阪・関西万博 日本館 アテンダント

・・・606号掲載

⑥ 特集企画（その他）

ユニフォーム業界のリサイクルに関する実態調査・・・603号掲載

大阪・関西万博の開催まであと〇〇日 TOPIC プラス EXP02025

・・・603～606号掲載

2. ホームページの運営（インターネットを通じた情報公開）

弊法人の各種情報の公開と最新活動内容の紹介として、ユニフォームに関する調査結果、研究開発成果、各種資料等の情報を随時更新し、積極的に発信しました。

また、ウェブサイトを経由してのユニフォームに関する諸問題への無料相談を受け、各相談に真摯に対応し、ユニフォームの質的向上、改善に努めました。さらに、ユニフォーム最先端素材資料をまとめ、日本のメーカーが持つ最先端の技術を駆使した素材情報を広く提供いたしました。



NUCホームページ

また従来のウェブサイト更新に加え、リニューアルの準備を進めました。

II. シンポジウム、セミナー、展示会ショーの開催

ユニフォームに関連する最新情報と、ユニフォームの役割や必要性、さらにその「効果効用」を普及啓発するために、ユニフォームを取り巻く現状調査報告や意見交換の場として、定期的なセミナーの開催やユニフォームに関連する各種展示会に協力し、ユニフォームの普及活動につとめました。

1. 定期セミナーの開催

会員並びに広く一般を対象に、「NUC定期セミナー」を開催しました。セミナーはユニフォームの専門知識の習得、さらには社会の幅広い分野からユニフォームに関連する知識を提供すること

で、受講者がユニフォームの現状・最新情報・今後の発展等を学び、見識を深めることを目的としています。

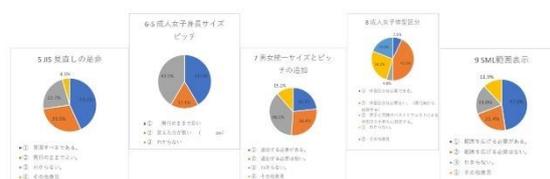
今期のセミナーは、総受講者数は143名、平成25年度からの受講者総合計は1,302名となりました。

WEBセミナー形式を主体に実施し、お申し込みいただいた皆様には、当日の配信に加え、動画共有サービスYouTubeにてセミナーの内容を公開しました。

今期は下記の要項で全4回開催しました。

1回あたりの平均受講者数は35人です。

主なヒアリングの集計結果



第1回定期セミナー

「新JIS 衣料サイズの解説と改正までの経緯」

令和6年度 <定期セミナーの概要>

1	令和6年 6月15日 (木)	「帽子のデザインや儀礼について」 講 師：有限会社オートモード平田 代表 平田 欧子氏
	概要：警察官、駅員、空港の税関職員などのユニフォームでは、帽子の有無が全体的な印象に大きな影響を与えます。また、食品管理、建築現場などの野外作業における着用も、衛生・安全性の面からみて重要な働きをしています。様々な役割を持つ帽子について、モディストの平田欧子氏にインタビュー形式でご解説いただきました。洗練された帽子を生み出すデザインソースや着用時の儀礼まで、幅広い内容をお話いただきました。	
2	令和6年 8月1日 (木)	「縫製工場の現状や課題、人材育成、魅力的な工場への改革等について」 講 師：アズマ株式会社 ASC 顧問 稲荷田 征氏
	概要：一三陽商会などで長きにわたり婦人パターン設計・縫製工場技術指導に携わった功績を背景に、縫製工場の現状や課題、人材育成、また魅力的な工場への改革等について解説いただきました。	
3	令和6年 10月17日 (木)	「色の心理効果の変化とブランディングについて」 講 師：一般財団法人日本色彩研究所 常務理事／研究第1部シニアリサーチャ 名取和幸氏

		女子美術大学、東洋大学、沖縄県立芸術大学非常勤講師
		色の心理効果は人の体験により作られ、国や時代、年齢などによる変化もあります。本セミナーでは、色が人に与える効果や色のもつ役割、時代で変わる色のイメージ等を、ユニフォームのデザインとも絡めてご解説いただきました。また、一般的に好まれやすい色の傾向やコーポレートカラーとの関係、商品によって好まれる色の違いなど色彩心理学の観点からご説明いただきました。
4	令和7年 2月19日 (水)	「RFIDの基礎知識セミナー」 講 師：TOPPAN デジタル株式会社 事業開発センター カード・IoT ソリューション本部 カード・IoT ソリューション事業開発部 RFID 推進チーム 戸田 順子氏
		概要：物流業界から製造業、アパレル・小売業まで、さまざまな業界で在庫管理などに活用されているRFID。業務効率化および生産性向上を実現する技術として注目を集めているRFIDとは何かといった基本からその種類、活用事例を解説いただきました。

2. 「反射材フェア2024」に協力

(一財) 全日本交通安全協会・反射材活用推進委員会が主催する《気を付けよう、夜のお出かけ。身に着けよう、目立つ反射材。着けよう反射材!! 防ごう夜間の交通事故「反射材フェア2024」10月19日(土)会場 池袋サンシャインシティ噴水広場アルパBIF》に協力しました。

今回ステージエリアでは「反射材ファッションショー」や「反射材ミニライブ」に加え、華やかな「反射材弾雨パフォーマンス」など、反射材の効果を一層楽しく、体験・体感していただくプログラムで構成されました。服装の「見えやすさ」を診断できる「見えチェック」体験ブースや「反射材用品販売コーナー」、反射材用品が当たる「巨大ガラポン」等の企画も好評でした。来場者の皆様にさまざまな反射材を手にとってもらうことで、反射材の視認性の高さや交通事故防止で重要な役割となることが解りやすく伝わる内容となりました。



3. 1970年大阪万博 ユニフォーム・コレクションに協力

今回は、1970年日本万博博覧会（大阪万博）当時の出展施設であった鉄銅館を利用し、同博覧会の記念館として万博記念公園に2010年にオープンした「EXPO '70パビリオン」から、企画展についてご紹介します。企画展「1970年大阪万博ユニフォーム・コレクション」が2024年5月から2025年2月28日(金)まで開催されました。華やかなパビリオンホステスのユニフォームから協会職員、緑地管理係など65種80着を展示。また、



1970年大阪万博ユニフォーム・コレクション

コンペ出品作のデザイン画や関連資料・展示品が期間限定公開します。普段は一般公開されていない貴重な模型や展示品、資料、映像などを見ることができました。

III. 人材・専門家の育成

1. ユニフォーム資格認定制度とは

ユニフォームは着用者の年齢、体位体型、場合によっては性別、全国規模の制服にあつては地域の気温などに関係なく、同一のデザインを着用します。更には同じものを、ある決められた期間、例え

ば2～3年継続して着用し、且つ、限られた予算の中で購入します。

また、作業環境による生地選びも大切です。（汚れにくい、燃えにくい、匂いがつかない等）このように企業では様々な着用条件下に適したユニフォームを選び、購入するにあたって「安心して相談できるユニフォームの専門知識を持った人」を求めています。

そこで弊法人では平成10年度より、標記の認定制度を設けスタートしました。ユニフォーム担当者の専門知識レベルを一定の基準で段階的な級別の認定をすることで、よりユーザーの信頼を得ることができます。

<目 的>

- ① ユニフォームの専門者がそれぞれの段階でもっている知識・技能の程度を一定の基準で認定することで、ユニフォームの販売担当者の知識がいつそう磨かれること。
- ② ユニフォームの専門者が、一定の基準で専門的な知識と技術的なアドバイスができることで、着せる人（ユニフォームを購入する企業）が安心して自社のユニフォームを選定することができること。
- ③ ユニフォームの専門者を目指す初級者を指導できる中上級者を育成し、業界全体のレベルアップにつなげること。

この認定制度は認定されるレベルごとにスペシャリストレベル（初級）、プロデューサー・ディレクターレベル（中級）、エグゼクティブレベル（上級）に区分し、それぞれ学科講習及び試験によって合格者に資格認定を与えます。以上により、ユニフォームの質的向上を図り、より良いユニフォームの普及活動につながることを目的とした民間資格制度です。

■本年も昨年に引き続き、ユニフォームを取り巻く技術革新・規則の変化等に合わせ、講習内容をリニューアルし、開催しました。

また、様々な感染症拡大防止のため、事務局の講習会では三密を避けるべく定員を設け、席の間隔を確保するとともに手指の消毒や検温などの対策を講じました。

オンラインでのWEB講習会開講に加え、後日、講習会の動画を動画共有サービスYouTubeにて公開（受講者への限定公開）しました。

本年は、<初級>スペシャリストレベルの講習会を開講し、24名が受講しました。

■本年度の資格認定制度は以下の日程で開催しました。

「<初級>スペシャリストレベル」

ユニフォームに関する相談に対応できる基礎的専門知識と技術を有する者が取得できる
受講資格：

A) ユニフォームに関わる実務1年以上の者。

B) 企業のユニフォーム購入担当者と実務経験1年以上の者。

講習会：令和6年7月24日（木） 試験：令和6年8月20日（水）

本年度は23名が＜初級＞資格認定を取得し、初級取得者の総数は1,014名となりました。

IV. 国内外諸団体との連携

1. 国内諸団体

① 展示会、セミナー、研究開発、資料収集等で行政機関・関連団体と連携いたしました。

■ 宇宙航空研究開発機構（JAXA）

■ 公正取引協会

■ 繊維産業流通構造改革推進協議会

■ 全日本交通安全協会

■ （一社）サステナブル経営推進機構

その他、各検査センター、高視認性安全服、国内諸団体との連携でユニフォームの普及活動に努めました。

また、以下の委員会にユニフォームの専門家として委員を派遣しました。

■ 日本化学繊維協会

令和6年度 環境配慮型化学繊維に関する国際標準開発委員会（全3回）

委員：（公財）日本ユニフォームセンター ESH・技術研究グループ課長 清水 徳子

令和6年度 トレーサビリティ情報分科会（全3回）

委員：（公財）日本ユニフォームセンター 業務・経理・総務グループ課長 桑木 誠

関係者：（公財）日本ユニフォームセンター ESH・技術研究グループ課長 清水 徳子

2. 海外諸団体

■台湾「紡拓会」との交流継続

パンテキスタイルフェア TOKYO2025 素材展示会
への後援及び TheUNIFORM 誌上での情報発信。

■特定非営利活動法人 日本インド国際産業振興 協会 (NPO) との交流。

■中国の青島市を中心としたユニフォーム企業
11 社 13 名が来局し交流。弊法人の役割や日本の
ユニフォーム企画のあり方について。

>>入場無料

PANTEXTILES TOKYO 2025

日時：2025年5月14日(水)-5月15日(木) 午前10:00～午後5:00
会場：ベルサール渋谷ファースト地下1階展示ホール
(東京都渋谷区東1-2-20 住友不動産渋谷ファーストタワー地下1階)

- 最新の環境配慮素材と機能性素材
- コーヒー繊維、紙糸、シーワール、機能性ワール
- ダウン、樹脂ペレット、フィルム
- 織物、ニット、ニットデニム、インナーウェア生地
- 婦人服、ドレス、ソックス、ニット手袋と帽子などのOEM/ODM

主催：紡拓会 台湾本部
☎ +886-2-23417251(担当：文) 内線2366 ☎ +886-2-23917712
✉ takashiwa@textiles.org.tw 🌐 www.textiles.org.tw

後援(50音順)：
協同組合東西ファッション連合 / 東京スポーツ用品工業協同組合
一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会 / 日本繊維産業連盟 / 日本繊維輸入組合
日本繊維工業組合連合会 / 日本紡績協会 / 一般社団法人日本メンズファッション協会
一般社団法人日本ユニフォーム協会の会 / 公益財団法人日本ユニフォームセンター

パンテキスタイルフェア TOKYO2025 広告

(2) ユニフォームに関する調査、資料収集、研究開発事業

1. ユニフォームに関連する調査、資料収集

1. 受託調査 テーマ「オフィス・サービス系ユニフォーム着用効果の実態」

オフィス・サービス系ユニフォーム市場の低迷から、対象ユニフォーム着用者の意識を探るべく某
団体から受託型の意識調査をお申込みいただき進めてまいりました。

設問内容まで決定していましたが、調査協力の要となる販売代理店経由での個人情報を含むクライ
アント情報の取扱いが難しいことから、令和6年度は見合わせることになりました。

2. 資料収集

歴史的・文化的な価値のあるユニフォーム資料の保存や、ユニフォームに関連する最新技術・先端
素材の資料収集の活動を継続して行いました。

収集し保存した資料は、ホームページ上の公開や、要請に応じた展示会やショーへの貸し出しを通
じ、広く一般に公開しています。

II. 研究開発

1. ユニフォームの研究・開発

より安全で機能的なユニフォームを作ることを目的に、幅広い業種・職種に適合したユニフォームの研究開発を行いました。ユニフォーム着用者の体型の調査研究や、労働科学・人間工学的側面から体の仕組みと運動に適合したユニフォームの研究開発に取り組みました。

■公益事業の基本的「ユニフォーム調査・研究・開発事業」要件

< 1 > 対象：不特定多数を対象とする。

< 2 > 内容：意識調査、着用現場調査、素材・機能研究開発、仕様書開発、サイズ研究等が含まれる事。

< 3 > 調査・研究・開発テーマが次に該当すること

- ①素材や形状・構造に関する、新しい技術の開発
- ②安全性の確保・事故防止・災害の防止につながる
- ③犯罪の防止・ユニフォームの悪用防止につながる
- ④女性の就労・女性活躍につながる
- ⑤環境保全・環境保護につながる
- ⑥妊産婦・障害者等が職場で着用する「ユニフォームに問題を抱える人」の為の改善改良

< 4 > 報告書の公表：

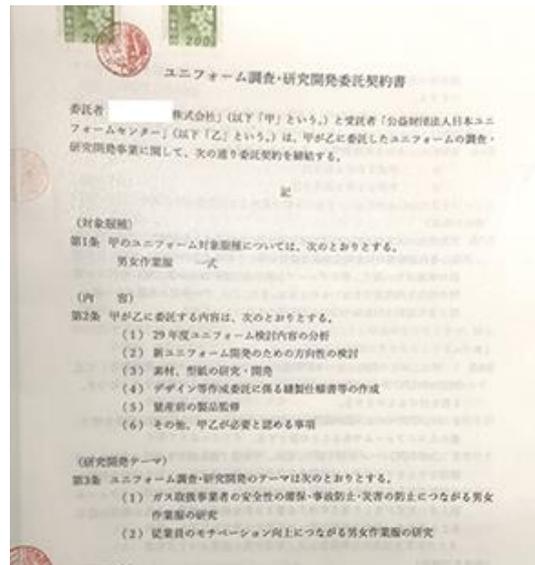
- ① 事務局にて、調査研究開発報告書を報告レポートにて一般公開する。
- ② 弊法人ホームページ内、業務報告ページ及び、調査・資料収集研究開発事業ページで年度別に報告書内容の要点を公表する。



(資料室情報開示棚)

< 5 > 経済的利益：利益を得ることを目的としない。

< 6 > 受託調査研究の場合は、調査研究開発受託契約書に「〇〇〇〇ユニフォームの調査・研究・開発」契約書と明記する。



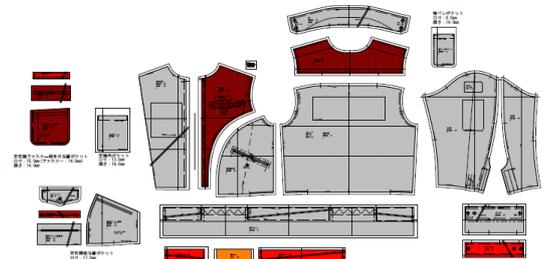
調査研究開発事業は

①自主研究開発と②受託研究開発があります。

① 自主研究開発

仕様書・パターンメイキングの研究開発

ユニフォームを着る人々は、その職場環境・作業動作に適合したユニフォームの着心地・安全性・機能性・強度などを求めていることに鑑み、弊法人の調査・研究・資料の収集等の成果と専門性を生かしたユニフォームの仕様書を作成いたしました。



パターン開発

■環境配慮型素材の採用

■安全面／快適面から、制電作業服、難燃作業服、防寒作業服、電動ファン付ウェア及びペルチェ素子を利用した暑熱環境対応作業服

■事故防止のための反射材付安全服など

■新機能袖パターンの研究開発

ーなど、時代に則した仕様書・パターンメイキングの研究開発を行いました。

■アパレル3D着用シミュレーションシステムの活用

また、上記の仕様書作成に至るまでのユニフォーム研究開発過程においては、アパレル3D着用シミュレーションシステム（3DCG技術）を活用しました。

これにより研究開発及びその検討過程の合理化を図るとともに、必要最小限の試作品作成を実現し省資源化を図り、SDGs への貢献にもつながる事業としました。



E S H (Environment・Safety・Health) 環境・安全・健康に関する研究開発

社会の新たな要請である、環境・安全・健康をテーマとし働く人の福祉向上も目標に、E S Hに関する課題を解決するための研究開発に取り組みました。

■高視認性安全服

高視認性安全服普及委員会（弊法人を含む3団体で構成：公益社団法人日本用品協会/一般社団法人日本防護服協議会）として、労働災害防止に役立つ高視認性安全服の普及活動を行いました。



■洗濯機で洗える制帽の研究開発

警察官や駅員などで見られる従来の女性制帽(所謂ハイバック型制帽)は汗や雨に弱く、水分を含むことで型崩れなど劣化が生じるため、洗濯できないことから衛生面に問題がありました。

弊法人では「洗濯機で洗える女性制帽・ウォッシュャブルシャポー」研究開発し、鉄道・バス会社等で好評だったことから、同じく衛生面に課題のあった官帽型制帽においても研究開発を重ね「洗濯機で洗える官帽」を発表。令和6年12月特許登録が完了しました。

企画・開発とらば 日本製



大好評、洗える制帽が既製品(受注生産品)になりました。

官公庁・大手企業で採用中の「洗える制帽」が1個から導入いただけるようになりました。従来の難しかった少人数でのご採用や、次年度以降の本格採用に向けた試験着用などにもぜひご検討ください。



②受託研究開発

■パビリオンアテンダントが業務時に着用する制服(万博関連 1)

【現場での労災事故防止】

雑踏での踏みつけ事故防止および発災時(地震など)の緊急対応を含め、従来のアテンダントユニフォームで実績の多かった革靴やパンプスと比較して機動性の高いスニーカーを採用した。

【快適性の改善】

伸縮性を備えた素材(上衣・ベスト・インナー・ズボン)、通気性、吸汗速乾性に飛んだ素材(帽子・インナー)により快適性を確保。水洗い洗濯が可能な仕様設計とし、清潔感を保てるものとした。

【機能性の改善】

適度なゆとりを持たせたシルエット、伸縮性のある素材の導入で動きやすい仕様とした。

【環境保全・環境保護素材対応】

部分植物由来PET 繊維の採用。

廃材になる予定であった人工皮革等を活用しバッグを製作した。

■パビリオンアテンダントが業務時に着用する制服（万博関連 2）

【現場での労災事故防止】

パビリオン館内に設けられた森を再現した特殊環境（砂や土が敷かれ濡れた草や傾斜地のある環境）においての転倒事故防止のため、耐滑性の高いスニーカーを採用した。

【快適性の改善】

伸縮性を備えた素材（上衣・インナー・ズボン）、通気性、吸汗速乾性に飛んだ素材（インナー）により快適性を確保。水洗い洗濯が可能な仕様設計とし、清潔感を保てるものとした。

また、4月から10月の開催期間を踏まえ、寒暖差に対応しやすい調湿・調温機能を備えた先端素材を使用したインナーを採用した。

【機能性の改善】

適度なゆとりを持たせたシルエット、伸縮性のある素材の導入で動きやすい仕様とした。

【環境保全・環境保護素材対応】

再生PET（リサイクル）繊維の採用。

■パビリオンアテンダントが業務時に着用する制服（万博関連 3）

【現場での視認性向上】

パビリオン館内での来館者とアテンダントの差異を明確にし、黄色識別性を向上させた。

【快適性の向上】

通気性の高い表地を採用するなど4月から10月の開催期間を踏まえ、特に夏の酷暑時気候に対応しやすいコートジャケットを採用した。

【機能性の改善】

適度なゆとりを持たせたシルエット、伸縮性のある素材の導入で動きやすい仕様とした。

【環境保全・環境保護素材対応】

一部再生 PET（リサイクル）繊維の採用。

※上記には、昨年度からの二年度に亘る調査研究開発委託事業や、現在進行中の調査研究開発も含まれています

III. 基礎研究助成

1. 基礎研究助成の目的

ユニフォームに関わる諸研究の助成を行うことにより、働きやすく・快適なユニフォーム作りの推進と研究活動の活性化を図り国民の厚生福祉に寄与することを目的としています。

今年度は引き続き随時募集を行い、公募テーマは世の中の流れやニーズに沿った内容となるよう、適宜見直しを行っています。

2. 令和6年度の公募テーマ及び選考について

指定募集テーマ

- A) 人工知能（AI）技術を用いた新しいユニフォームに関する研究
- B) 非接触型技術などの新しい身体測定に関する研究
- C) ユニフォームの本人認証・物流管理、効率化の為にRFIDタグ活用に関する研究
- D) 防災・セキュリティに関連するユニフォームの研究
- E) 高視認性安全服、熱中症対策ユニフォームに関わる研究
- F) 職場における女性活躍促進などに関するユニフォームの調査研究
- G) ユニフォームの国内縫製の実態調査
- H) ユニフォーム各分野の市場調査研究
- I) 諸外国におけるユニフォームの調査

【令和6年度公募助成】

募集期間：随時

応募件数：1件

助成対象：和洋女子大学 助教 奈良 玲子 様

「ユニフォームの影響力と感情労働マネジメントの相互関係」

助成期間：1年（令和6年10月～令和7年9月末日）

助成金額：84万円

研究概要：対人サービス業に従事する女性の感情労働とユニフォーム着用がどのような相互関係を成り立たせているのかを示唆することを目標とする。同時にユニフォームが仕事へのモチベーションを向上させ、質の高い顧客サービスを提供することに寄与しているのかを分析する。

多くの場合、入職時にはユニフォームに対する特別な思い入れは持ち合わせていないと考えるのが一般的であろう。入職後、対人サービス業に携わるようになり、適切に感情コントロールする術を学び、同じユニフォームを着用する同僚との連帯感などを深めていくプロセスを経て、徐々にプロフェッショナリズムを体得していくと考えられるのではないだろうか。即ちユニフォームは対人サービス業に従事している女性たちに何らかの影響を与えていると想定するものである。

一方、看護師、エアラインスタッフなどに代表される様に、個人の職業に対する概念、憧れ、或いはどのような努力を経て職を得るに至ったのかなど、ユニフォームの存在そのものがキャリア形成の根本と結びついているケースもあると考えられる。

本研究が他の先行研究と一線を画している点は、入職時にはユニフォームに対する捉え方に相違点がみられる女性たちが、実際に企業の一員として稼働するなかで、ユニフォームの位置付けをどのように推移させているのか、更にそれが何らかの形で感情労働マネジメントに貢献しているのかなどを比較分析することである。

ユニフォーム着用が女性スタッフに与える影響力を視座し、より健全な労働環境の中で業務にあたれるよう、そして企業の発展につながるような女性とユニフォーム着用の関係性、ユニフォームの可能性、有効性について調査分析する。



助成規定に則り、令和6年7月30日、当局会議室に於いて選考委員会を招集しました。オブザーバー立会の元で進行した審議は、途中でオンラインにて申請者の奈良玲子氏と繋ぎ、選考委員からの質疑応答の時間も設けました。

結果として全員一致で採択の方向性が示され、そ

の後、理事会で承認を受けました。期を跨いで助成事業は進行中です。

(3) ユニフォームに関する診断、相談、助言事業

I. 診断・相談・助言

ユニフォームに関する諸問題をかかえる着用者、団体、学校など「ユニフォームを着る側、着せる側」、並びにアパレル、商社、素材メーカーなど「ユニフォームを作る立場」からの相談に対し、面談、電話、メール等により専門的知識を有する技術者・専門委員・理事などが助言活動を行いました。

具体的には、ユニフォームの諸問題点（色彩・素材・サイズ・縫製・価格・強度等）を機能性、象徴性、審美性の面から評価・分析し、総合的な診断・相談・助言活動に取り組みました。

公益社団法人 2025 年大阪・関西万博について、万博パビリオンのユニフォーム開発に係る相談が寄せられ、総合監修を含む 5 件についてコンサルティングいたしました。



<ホームページ等からの相談問合せ例>

ル」の普及を促進しました。

(5) ユニフォームに関する物品の斡旋事業

オリジナルユニフォーム及びカタログユニフォームの製品斡旋等を行う事業。

一般のユニフォームメーカーではデザイン開発・コスト・スケジュールなどの面で対応が難しいと思われる少人数業態事業所を対象に、機能性に優れたオリジナルユニフォームの斡旋を行いました。

(6) ユニフォームに関する特定団体・企業などへのデザインの提供・診断・監修

特定団体・企業等へのデザインの作成・イラストの作成・デザイン説明の作成または、診断・監修業務等。

■収益事業の「ユニフォームのデザイン提案」の条件

公益事業以外のユニフォームデザイン提案に関する委託事業

(調査・研究・開発を伴わない、デザイン作成・型紙作成・仕様書作成)

主な実績

大手物流会社、大手素材メーカー、大手家電メーカー、鉄道、警備服など

<管理部門>

会 議

理事会、評議員会を次の通り開催しました。

I. 理事会

開催月日	開催場所	議 題	
第 72 回 6. 5. 14	NUC 事務局	第 1 号議案 公益財団法人 第 13 期事業報告及び 決算について	承認
		第 2 号議案 令和 6 年度 役員報酬の件	承認
		第 3 号議案 「定時評議員会の日時及び場所並びに 目的である事項等」の件	決議
		第 4 号議案 評議員会に提出する新役員の 候補者推薦について	承認
		第 5 号議案 評議員の推薦について	承認
		第 6 号議案 会員について	承認(入会)
		第 7 号議案 事務局報告	報告
第 73 回 6. 11. 19	NUC 事務局	第 1 号議案 経理報告	報告
		第 2 号議案 会員について	承認(入会) 報告(退会)
		第 3 号議案 専門委員について	承認
		第 4 号議案 事務局報告	報告
		第 5 号議案 監事からの半期監査報告	報告
第 74 回 7. 3. 18	NUC 事務局	第 1 号議案 経理報告	報告
		第 2 号議案 令和 7 年度事業計画及び収支予算書の承認	承認
		第 3 号議案 会員について	承認(入会) 報告(退会)
		第 4 号議案 監事監査計画について	報告
		第 5 号議案 事務局報告	報告

II. 評議員会

開催月日	開催場所	議 題	
第 14 回 6. 6. 4	NUC 事務局	第 1 号議案 議長選出について	
		第 2 号議案 議事録署名人選出について	
		第 3 号議案 公益財団法人 第 13 期 事業報告について	報 告

		第4号議案 公益財団法人 第13期 決算について	承認
		第5号議案 役員(理事・監事)の選任の件	決議
		第6号議案 評議員の推薦について	承認
		第7号議案 令和6年度 役員報酬の件	決議
		第8号議案 事業計画及び予算について	報告

Ⅲ. 評議員選定委員会

開催月日	開催場所	議 題	
第13回 6.6.18	NUC 事務局	第1号議案 議長選出について 第2号議案 評議員選任の件	決議

会 員

特別会員会社名

東レ(株)/日本毛織(株)/帝人フロンティア(株)/株チ ク マ/ミドリ安全(株)/アイトス(株)

区 分	令和6年度			
	R6/ 4. 1	増	減	R7/ 3. 31
特別会員	6	0	0	6
特別研究賛助会員	1	0	0	1
研究賛助会員	4	0	0	4
賛助会員	14	0	0	14
普通会員	164	9	6	167
計	189	9	6	192

役 員 等

I. 役員構成

(令和7年3月31日現在)

区 分	総 数	内 訳	
		一 般	会員派遣
理 事	21	9 (内常勤2名)	12
監 事	3	3	0
評 議 員	29	5	24

1. 理事（役員）

（令和7年3月31日現在）

役職名	氏名	略歴
理事長	藪谷典弘	(公財)日本ユニフォームセンター
業務執行理事	谷山洪栄	(公財)日本ユニフォームセンター
〃	小林浩	(公財)日本ユニフォームセンター
理事	吉田弘美	服飾デザイナー
〃	丸田直美	共立女子大学 研究推進センター教授
〃	石津 墨	ファッションディレクター
〃	甲賀真理子	服飾デザイナー
〃	石田欧子	帽子デザイナー
〃	嶋崎隆一郎	服飾デザイナー
〃	竹内敬人	東レ(株)
〃	大槻真也	東レ(株)
〃	大鍛治栄一	日本毛織(株)
〃	小田切晋平	日本毛織(株)
〃	白石和男	帝人フロンティア(株)
〃	安田哲也	帝人フロンティア(株)
〃	味澤英樹	(株)チクマ
〃	乗杉研一	(株)チクマ
〃	村上文彦	ミドリ安全(株)
〃	鬼塚達治	ミドリ安全(株)
〃	荒木隆史	アイトス(株)
〃	伊藤忍	アイトス(株)

2. 監事（役員）

（令和7年3月31日現在）

氏名	略歴
北尾哲郎	弁護士
山田 務	筑波大学 名誉教授
長野隆貴	(公財)日本ユニフォームセンター

3. 顧問

(令和7年3月31日現在)

氏名	略歴
藤原典	(公財)日本ユニフォームセンター 前理事長
小西正紀	服飾デザイナー

4. 評議員(役員)

(令和7年3月31日現在)

氏名	略歴	氏名	略歴
梅田輝紀	東レ(株)	高久和郎	元 エチカスパークライト(株)
金田至保	日本毛織(株)	伊藤晴美	(株)たまき
門脇秀樹	帝人フロンティア(株)	菅野孝男	牧村(株)
堀松涉	(株)チクマ	西垣武志	辰野(株)
宗形浩一	ミドリ安全(株)	佐藤知弘	(株)空調服
伊藤崇行	アイトス(株)	佐藤恵一	東和(株)
笠井俊宏	帝国繊維(株)	野邑慎二	島田商事(株)
中本聖	(株)ナカヒロ	神崎賢二	元 新成物産(株)
対馬英人	清原(株)	田伏賢司	(株)ユニウエル
岡崎正夫	東洋物産(株)	池悦子	ジャーナリスト
金井憲司	(株)三景	井上悦希	(一財)全日本交通安全協会
水本哲平	(株)マーケティング	榎下町慶子	(一財)日本ファッション教育振興協会
田中賢	(株)武蔵富装	酒井一博	(公財)大原記念労働科学研究所
幾永詩木	元 佐藤産業(株)	橋爪紳也	大阪公立大学研究推進機構特 別教授 大阪公立大学観光産 業戦略研究所長
今泉善徳	イズミ産業(株)		

5. 専門委員

(令和7年3月31日現在)

氏名	略歴	氏名	略歴
西山栄子	ジャーナリスト	所昌平	ジャーナリスト
森伸之	イラスト・作家	長屋宏和	服飾デザイナー
執行雅臣	メンズファッション評論家	小篠ゆま	服飾デザイナー
大塚陽子	ジャーナリスト	大澤かほる	色彩専門家
嗣永龍彦	メンズデザイナー	真木喜久子	服飾デザイナー

広 島 ひとみ	服飾デザイナー	長谷川 貞 昌	服飾デザイナー
山 口 善 昭	産業組織心理学者	小 野 原 誠	服飾デザイナー
阿 部 恭 子	服飾デザイナー	天 津 憂	服飾デザイナー
朝 月 真次郎	服飾デザイナー	元 木 雪 惠	コンサルタント
前 田 修	服飾デザイナー	坂 井 史 治	繊維検査専門家
エ マ 理 永	服飾デザイナー	原 由美子	ファッションディレクター
金 子 博	服飾デザイナー	五 味 光 弘	繊維検査専門家
高 田 祐 子	服飾デザイナー	水 本 一 生	コンサルタント
堀 畑 裕 之	服飾デザイナー	服 部 勝 治	コンサルタント
加 藤 徹	服飾デザイナー	古 田 由佳利	服飾デザイナー
小 室 しづか	服飾デザイナー	丸 龍 文 人	服飾デザイナー
永 澤 陽 一	服飾デザイナー	中 田 優 也	服飾デザイナー
大 矢 寛 朗	服飾デザイナー		

事業報告の附属明細書

令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

公益財団法人 日本ユニフォームセンター